

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第104号

R6.3.31発行



皇后杯第42回全国都道府県対抗女子駅伝

広島県チーム
過去最高タイの3位

陸上人

FILE0039

広島県が過去最高に並ぶ3位入賞!

広島・女子《谷本七星》

駅伝

広島県チーム

Team Hiroshima

●広島県チームメンバー／岩本真弥監督(ダイソー)、江口美咲(エディオン)、平村古都(ダイソー)、兼友良夏(鶴学園クラブ)、竹原さくら(ダイソー)、森陽向(ダイソー)、谷本七星(名城大)、高橋美月(銀河学院高)、山田依菜(世羅高)、森安桃風(銀河学院高)、岡藤美音(広島工大高)、藤井柑奈(東広島西条中)、岩村莉奈(東広島磯松中)、三宅凜(東広島西条中)



34——1から数えて34番目の数字には特別な意味がある。ナンバー34は広島代表の証である。

「“34”は誇りと責任が感じられる数です。普段から広島の番号として意識しています。」

1月に京都で行われた全国都道府県対抗女子駅伝レース当日。各チームのエースが顔を揃える10kmのアンカー区間を初めて任された谷本七星(名城大)は、中継所でその数が読み上げられる瞬間を待っていた。…28(兵庫)…4(宮城)…14、12、27(神奈川、千葉、大阪)……34(広島)。ナンバー34は、6番目に谷本の耳に届いた。

「早く呼ばれて嬉しかったです。“入賞を決めたい!”という思いで走り出しました。とにかく8位以内を死守しようという気持ちでした。」

今回の広島県チームの目標は8位入賞だった。21年ぶりの入賞に向け1区の兼友良夏(鶴学園クラブ)が入賞ラインから8秒差で2区の竹原さくら(ダイソー)へ。ここで竹原が8人を抜いて入賞圏内へポジションを押し上げて良い流れを確実にする。続く藤井柑奈(西条中)がさらに2人を抜いて6位へ。引退レースとして臨んだ4区・江口美咲(エディオン)が少し順位を下げるも粘って5区の森安桃風(銀河学院高)へ託す。すると森安は6人を抜いて3位に浮上させる力走を見せる。その後、レース終盤へ向かう区間で少し順位を落としながらも、6区・山田依菜(世羅高)、7区・高橋美月(銀河学院高)、8

区・三宅凜(西条中)が入賞圏内を守りながら最終区まで襷を運んできた。

11秒前に3チームが走行する展開で走り出した谷本。一般的には前の集団を早く捉えたいという心情から突っ込んでしまうところだが、岩本真弥監督からこのコースの攻略法を聞いていたこともあり、慌てて追いかけることはしなかった。岩本監督によると前半上って途中下って最後は平坦になると前半上って途中下って最後は平坦になると日本代表クラスの選手でも最後に足が止まることが多いという。

「走り出す直前まで、監督からのアドバイスと自分のイメージを照らし合わせながら、何度もイメージトレーニングをしていました。10kmを自分の持っているスタミナで走り切っていけるようにと考えていたんです。」

後半に足を残すイメージで走っていると次第に前を行く選手達の背中が近づいて、一人、二人とかわすることができた。そして、ついには3位の選手の背中が西京極総合運動公園の入り口で視界に入り、そこから残された力で必死に追いかけてトラックで捉えることに成功。広島にとって3度目の3位、過去最高順位タイでゴールした。

過去2回の3位は32年前と31年前のことになる。当時、国内屈指の中長距離選手だった原万里子(ダイイチ)、麓みどり(ダイイチ)を二年連続で1区と9区に起用して挑んだ第10回大会(92年)と第11回大会(93年)だ。

さらに今回の総合記録2時間17分23秒は、第18回大会(00年)に1区・麓、9区・小鳥田貴子(デオデオ)らの布陣で挑んで

マークしたこれまでの県最高記録2時間18分44秒(第4位)を更新するものだった。

「七星(ななせ)」という名前は、北斗七星に由来し、その昔、船乗りが北斗七星を目印にして航海をしたように、「目印になる、導く」といった思いが込められたものだという。その名のとおり、最長区間をクレバーな走りですべて銅メダル獲得に導いた。

「中学・高校時代にこの大会で走ることができたのは1回だけでした。強い人たちに負け続けて、やっと選ばれて、ようやく走れた憧れの大会です。今回、アンカーを走らせてもらって成長した姿を見せられたかなと思っています。中学から社会人まで一貫して同じ大会に出られるのがこの大会の良さの一つなので、今後も参加できたらいいなと思っています。」

中学、高校、一般とステージが変わってもナンバー34を胸に走るこの大会は自身の成長を測るものさしになる。その数字は『憧れ』から『誇りと責任』に変わり『成長』は下の世代の『希望』になる。そして今後は、エースの『伝統』の継承者としての期待が高まる。



今回は8位入賞を目指していました。現実的な目標の設定は、選手が決まってからになります。男子同様、一般区間を誰に走ってもらうのが一番の悩みどころですが、今回は、八本松中学出身の江口さん(美咲・エディオン)が、「今年度で引退するので、使ってもらえませんか」と申し出てくれていました。谷本さん(七星・名城大)も、昨年この大会で補欠に回った時から、「ぜひ次回は」という強い思いを伝えてくれていました。早い段階での快諾は本当にありがたかったです。女子駅伝は、中学生2人、高校生3人、社会人・大学生4人とバランスの取れたオーダー編成を組めるかどうか、好結果を出すための一つのポイントになります。広島も数年前は9区間中、高校生5人という時がありました。やはり高校生と一般とは、どうしても埋められない力の差があるものですから、今後も、一般の選手をしっかり配置できるようにと考えています。

レースは、1区と2区をセットで考えて、3区に渡るところで入賞圏内を走行していればチャンスがあると思っていたので想定通りの展開になりました。そして大きかったのは経験値です。前年に同じ区間を走った選手が多かったため、経験に勝る学びはないといったところでしょうか。来年に向けては、またゼロからの出発です。中学、高校と広島で成長した選手が、社会人になった時に、「広島で走りたい」と思ってもらえたら、とてもありがたいです。

広島県チーム 監督 岩本 真弥

前回3位の立役者二人は共に、その年に偉業を成し遂げている。原は3000mで現在も広島県記録として残っている8分57秒37をマークして日本記録樹立(当時)し、麓は日本選手権女子1万mで優勝している。さらに、これまでの過去最高記録時にアンカーを務めた小鳥田が20年以上前にマークした5000m15分15秒16(03年)、1万m31分41秒32(01年)、ハーフマラソン1時間8分35秒(03年)の広島県記録は未だ破られていない。

令和の“34”のエース、谷本七星、21歳。いつかきっと——。(藤森 順子)



《総合成績》

3位

皇后盃 第42回全国都道府県対抗

女子駅伝競走大会を終えて

●開催日 / 2024年(令和6年)1月14日(日) ●開催会場 / 京都府京都市



タイム / 2°17' 23"

1区	16位	19'39"	兼友良夏(鶴学園クラブ)
2区	6位	12'49"	竹原さくら(ダイソー)
3区	12位	9'48"	藤井柑奈(西条中)
4区	18位	13'24"	江口美咲(エディオン)
5区	3位	12'57"	森安桃風(銀河学院高)
6区	10位	13'30"	山田依菜(世羅高)
7区	5位	12'48"	高橋美月(銀河学院高)
8区	7位	10'05"	三宅 凜(西条中)
9区	6位	32'23"	谷本七星(名城大)

することが出来、とても嬉しく思います。私自身これが現役最後のレースとなりまして。陸上を始めた頃からの憧れの大会で、広島県のユニフォームを着て走れて幸せです。21年ぶりの入賞、31年ぶりの表彰台。新たな歴史の一步になると嬉しく思います。たくさんの応援ありがとうございました。

鶴学園クラブ 兼友 良夏

広島県代表として2区を走らせていただきました。3位入賞という素晴らしいチームに貢献することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。個人的にはもっと上を目指して頑張ります。ご声援ありがとうございました。

ダイソー 竹原 さくら

まずはこの都道府県駅伝に携わる全ての方々に感謝したいです。そして、今回3区を走らせていただいたこと、メンバーに選んでくださったこと、当たり前ではないことにも感謝したいです。また、沿道で応援してくださいました方のおかげで自信を持って走ることができました。前回よりも結果は良くなって納得のいく走りはできませんでしたがチームが3位という結果を残せたのでよかったです。

東広島市立西条中学校 藤井 柑奈

今大会が無事開催され、出場するにあたり沢山のサポート、応援をいただき感謝しています。今回全員駅伝で目標を達成

初めての都道府県駅伝で不安もありましたが、多くの人の応援と一緒に闘ってくれた仲間のお陰で楽しく走ることができました。応援ありがとうございました。

広島県立世羅高等学校 山田 依菜

初めの都道府県駅伝で不安もありましたが、多くの人の応援と一緒に闘ってくれた仲間のお陰で楽しく走ることができました。応援ありがとうございました。

銀河学院高等学校 高橋 美月

8区を走らせていただいた三宅です!今回走らせてもらって中継を見ていたりして、1区の方から自分のところまで入賞圏内に入っていて、絶対入賞したいという思いがあったので、自分で落とさないようにとにかくアンカーの谷本さんのところまで頑張ろうと思えました!来年は出られる可能性はないかもしれませんが広島がいつでも最高のメンバーだと思います!

東広島市立西条中学校 三宅 凜

応援ありがとうございました。目標は8位入賞でしたが、3位でメダル獲得することが出来てとても嬉しいです!今回で3回目の出走となりましたが、地元広島のユニ

フォームを着られます。色んな世代の選手と交流できるので毎年楽しみにしています!また来年、広島に貢献できるようにしたいです。

名城大学 谷本 七星

今回はサポートとして広島県チームに携わせていただきました。走れない分、選手のために全力でサポートしようと思いました。3位という結果となり、走って下さった選手に感謝の気持ちでいっぱいです!来年は自分が走って今回以上の結果を残せるように1年間努力を続けて、来年また選手として帰ってきたいです。たくさんの応援ありがとうございました!

ダイソー 森陽向

今回は、走れませんでした。このチームのサポートをできてとても良かったです!3位入賞もして、みんなからたくさん刺激をもらうことができました!本当にみんなに感謝です!広島県チーム最高です!!

ダイソー 平村 古都

この度サポート役でチームの3位入賞を応援させて頂きました。直前の怪我でレースを走れなかったのは悔しかったです。広島県チームの快挙に感動をもらいました。今シーズンは高校ラストなので、悔いのないようにしたいです。来年はチームに貢献できる走りをします。

広島工業大学高等学校 岡藤 美音

私が入ることができなかったけど、チームで目標だった表彰台に登れてとても嬉しく思います。先輩たちの走っている姿はとても輝いていて、いい刺激になりました。次は私も走ってチームに貢献できるよう頑張っていきたいです。

東広島市立磯松中学校 岩村 莉奈



《総合成績》

14位

天皇盃 第29回全国都道府県対抗

男子駅伝競走大会を終えて

●開催日 / 2024年(令和6年)1月21日(日) ●開催会場 / 広島県広島市 他



タイム / 2°21' 20"

1区	29位	20'43"	坂口雄哉(世羅高)
2区	13位	8'44"	中西雄也(八本松中)
3区	7位	23'46"	中野翔太(中央大)
4区	14位	14'52"	向津 翼(世羅高)
5区	19位	26'06"	井上史琉(世羅高)
6区	2位	8'45"	大蔵 怜(向陽中)
7区	18位	38'24"	倉本玄太(青山学院大)

男子駅伝は、高校生の区間が確実に機能しないと上位進出は難しいので、今回は、昨年5区で好走し入賞に貢献した田原君(琥太郎・西条農業高)を1区に起用し、4区に坂口君(雄哉・世羅高)、5区に井上君(史琉・世羅高)を配置して何とか入賞圏内に行けるようにと思って準備をしていました。しかし、残念ながら田原君が年明けに故障で出走できなくなったので再構築し、坂口君を4区から1区へ、4区には補欠の本宮君(優心・世羅高)に任せたいと思っていたのですが、こちらも故障で起用できず、急遽招集した向津君(翼・世羅高)を投入するという玉突きオーダー編成になりました。そのようななかで、選手達は総じて現時点での力を出せたのではないかと考えています。

中学生区間に関しては、ここで順位を上げようとか、個人の区間順位を期待する、ということよりも、その先に続く競技人生のために経験を積み場であるという思いで、毎年、送り出しています。ジュニアの強化に焦点を絞って、月に一度、中学生の男女上位8〜10人を招集して合宿しているのも長い目を見た育成の一つです。今回は2区の中西君(雄也・八本松中)は下位の流れで走り出すことになる苦しい展開でしたが、前半行き過ぎながらも後半、何とか持ちこたえました。大蔵君(怜・向陽中)は区間2位の力走でした。二人とも中学生らしい凄腕とした走りが見られました。

一番の悩みどころは、毎年、一般の選手を誰にするか、ということになります。早い段階から、まずは地元の実業団、それから県外の実業団や大学の選手と監督、会社関係者、チームスタッフに折を見てお願いをさせていただいているのですが、以前よりもレースが増えて過密日程になったこともあってか、補欠も含めて、収まりよく決定するまでには紆余曲折があるので現状です。既に、もう来年へ向けてのメンバー集めは始まっています。今後も、皆さんのお力をお借りしながら、総力戦で上位を狙えるチーム編成をし、地元を盛り上げるような弾力プレーをしたいと思っていますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

広島県男子チーム 監督 岩本 真弥

目標としていた入賞は達成できませんでしたが、沢山の沿道の方々の応援が力となりました。温かいご声援ありがとうございました。来年は自分が1区を走り、第一回以来の優勝に貢献したいです。引き続き応援よろしく願います。

広島県立世羅高等学校 向津 翼

今大会では、6区を走り、区間2位という成績を残すことができました。この結果は、私を支えてくださった方々や応援してくださいました方々のおかげです。本当にありがとうございました。区間賞を逃してしまったので悔しい気持ちもありますが、広島県の代表として走られたことがとてもうれしいです。またこの舞台で走ることができるように、これからも頑張ります。

東広島市立向陽中学校 大蔵 怜

沿道からのたくさんの応援のおかげで、順位を上げる走りことができました。来年も広島の代表として地元を走れるように、日々成長していきたいと思っています。

中央大学 中野 翔太



男子:第74回
女子:第35回

全国高等学校駅伝競走大会を終えて

●開催日 2023年(令和5)年12月24日(日) ●開催会場 京都府京都市



男子の部 総合成績 **13位**

タイム/2'05"54"

1区	27位	30'29"	坂口 雄哉
2区	24位	8'40"	向津 翼
3区	10位	24'04"	井上 史琉
4区	7位	23'48"	ジェレミア・カマウ
5区	19位	8'55"	檀上 翔
6区	11位	15'05"	三谷虎太郎
7区	8位	14'53"	本宮 優心

女子の部 総合成績 **11位**

タイム/1'10"15"

1区	33位	20'40"	山田 依菜
2区	40位	14'02"	井上 菜名
3区	36位	10'27"	廣崎 夢音
4区	5位	9'37"	後藤 彩香
5区	3位	15'29"	ローズ・ワングイ

全国高校駅伝の応援ありがとうございました。結果は13位と思いつく目標を達成することはできませんでしたが、都大路を目指す過程で様々なことを学ぶことができました。多くの方が私たち陸上部のことを応援し支えてくださっていることや大きな目標に挑戦する難しさ、楽しさを学ぶことができました。この1年間一人ひとりが苦悩を抱えながらも自らをひたすらに追い込み目標を達成するために辛抱強く過ごしてきました。この日々は絶対に自分の成長に繋がる毎日になりました。このような経験をこれからの自らの人生につなげていきたいと思えます。これからも世羅高校陸上競技部は、大きな目標に向かって毎日を過ごしていきます。応援の程よろしくお祈りします。

広島県立世羅高等学校 男子陸上競技部 主将 **坂口 雄哉**

力も付き、秋以降チーム力も高まっていましたが、選手の力を出し切らせてやるのができませんでした。厳しいレースとなりましたが、選手達は全力で走り抜けてくれました。駅伝は、やはり「流れ」が大切であること。昨年同様同じ失敗をしてしまい、指導力不足を痛感しています。もう一度、己を見直し、どのような状況でも、力を発揮できる強い「心」を育成していこうと思えます。また世羅町民の皆様はもとより、広島県民の皆様、同窓会、OBOG会の皆様、広島陸上競技協会、高体連の皆様等、沢山の皆様のおかげでこの出場であったと思っております。心より感謝申し上げます。また強い世羅を取り戻すため、スタッフ一同、尽力して参ります。引き続き応援よろしくお祈りいたします。

広島県立世羅高等学校陸上競技部 監督 **古原 拓弥**



年末に行われた全国高校駅伝では、たくさんの応援ありがとうございました。結果としては、目標に届かず悔しい結果となりました。しかし、たくさんの方が現地に足を運んでくださり、いろいろな形で私達をサポートしてくださったので、一人一人が全力を出し切ることができました。三年前の全国高校駅伝で世羅高校がアベック優勝する瞬間をテレビ越しに見て、心から感動しました。私もこんなふうに感動を与えられる走りたいと思ひ、日々都大路に向け、高校生活をかけて練習をしてきました。しかし、そううまくはいかず、一人一人しんどい事や辛い事がたくさんありました。でもそんな時、たくさんの方が私達を支えてくださり、私達は最後までやり切ることができました。11位という悔しい結果に終わってしまいましたが、この経験を活かしてそれぞれが次の目標に向かって突き進んでいきます。これからも陸上競技部の応援をよろしくお祈りします。

広島県立世羅高等学校 女子陸上競技部 主将 **山田 依菜**

入賞を目標に挑んだ都大路でしたが、結果は11位でした。今年も都大路を迎えるまで、色々なことがありました。その都度、保護者の皆様、世羅町の皆様、学校関係者の皆様、たくさんの方にご支援いただき、選手、スタッフ一同、乗り越えてこれたと思ひます。結果は目標には届きませんでした。今年も都大路の舞台に挑戦できたことに感謝し、貴重な経験を今後の糧として参ります。関係各位の皆様、ありがとうございました。

広島県立世羅高等学校陸上競技部 監督 **三原 慶子**



令和5年度全国中学校体育大会

第31回 全国中学校駅伝大会を終えて

●開催日 2023年(令和5)年12月17日(日) ●開催会場 滋賀県希望が丘

男子の部
《総合成績》
21位
東広島市立
向陽中学校



タイム/1'00"26"

1区	44位	10'05"	小玉宗時朗
2区	1位	9'22"	大歳 怜
3区	36位	10'25"	岩木 珠澄
4区	12位	9'58"	石津 悠大
5区	6位	9'53"	宇根田聖矢
6区	40位	10'43"	熊谷 有真



新チームが始動し、「全中駅伝3位」という大きな目標を立てました。今年度の春の新人戦でも駅伝はすべて優勝し、トラックシーズンまでは少し浮かれた気持ちチーム内にあったと思ひます。しかし、このままではだめだと気持ちを入れ替え、みんなで士気を高めて練習を再開し、中国中学校駅伝ではしっかり流れをつかみ、連覇することができました。そんな中国中学校駅伝ですが、全員が100%の力を出し切れたわけではなく、悔しい思いを持った選手もいました。この悔しさを晴らし、2年連続の入賞を果たしたいと、やる気と気合十分で全国中学校駅伝に挑みました。しかし、それでも結果は21位と目標とは遠い結果となってしまい、本当に悔しい思いが残ります。それでも、2年連続に、本当に悔しい思いが残ります。それでも、2年連続

続で全国の舞台に立つことができ、多くの経験や学びを得ることができました。このことは、私や仲間たちにとってはとても大きな財産です。今大会に導いてくださった先生方や、サポートしてくださったすべての方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。後輩たちの挑戦はまだまだ続くので、今後も応援よろしくお祈りします。

東広島市立向陽中学校 キャプテン **大歳 怜**

私たちは、この駅伝大会を通して目標を達成できなかったという悔しさが残りました。しかし、それ以上の学びや気付きも得ることができました。仲間と1本のたすきを繋ぎ、1秒を削り出す駅伝競技の楽しさ、仲間と同じ目標を持ち切磋琢磨し活動する時間の尊さ、これまでの活動は決して一人では成し遂げられるものではなく、多くの支援や協力のもとで成り立っていたことなど、多くのことを学びました。今回の経験は、生徒たちの心と体の成長に大きくつながったと思ひます。この成長が、生徒たちのこれからの人生において糧となり多くの人と繋がり、さらに成長していくことを願っています。こうして多くの学びを与えてくださったすべての方々に心から感謝します。ありがとうございました。

東広島市立向陽中学校 監督 **浅田 琴音**

女子の部
《総合成績》
12位
東広島市立
西条中学校



タイム/44'20"

1区	6位	10'36"	三宅 凜
2区	35位	7'41"	宮崎 結愛
3区	15位	7'38"	山原陽菜子
4区	20位	7'48"	上岡 桜和
5区	3位	10'37"	藤井 柗奈



私達は2年連続で全国中学校駅伝に出場し、昨年を超える12位という結果を残すことができました。全国各地の強豪校と競い、これほどの結果を残すことができたのは一人一人が気持ちの面で強くなったからだと思います。今年の中国中学校駅伝は、どこか「勝って当たり前」という雰囲気の中で本番を迎えました。緊張も不安もありましたが、1年間練習を積んできた自分に自信を持って走り2連覇を達成しました。この経験があったからこそ全国中学校駅伝に良い精神状態で臨むことができたと思ひます。常に私達の練習を支えてくださった荒谷先生や平木先生、2年間で選手の土台を築いてくださった前顧問の平賀先生には感謝しかありません。私達3年生が引退すると駅伝のメンバーは大きく変わりますが、それでも今まで培った経験を糧に昨年を超えるような、飛躍の年となることを期待しています。

東広島市立西条中学校 キャプテン **上岡 桜和**

今年も多くの方々に支えられ、2回目の全国大会へ出場することができました。今年度は、昨年に果たせなかった8位入賞を目標に、全国の舞台を経験した2・3年生たちと、新しく入部した1年生たちが日々努力し、さらに大きく成長してくれた。今年度も続いた校舎改修により、学校外での練習が多くあったが保護者の送迎や地域の方々、小・中・高等学校の先生方のご協力により、中国大会、全国大会を迎えることができた。去年より順位を1つ上げるも、目標の8位入賞には届かず悔しい結果であったが、選手たちのこれまでの頑張りには本当に素晴らしいものがあった。2年連続全国大会に出場した経験と、出場までに努力してきた過程を大切に、更なる成長を期待している。また、全国大会出場にあたり日頃から応援をして下さる保護者、地域の方々、学校関係者、陸上関係者の皆様には、たくさん助けていただき本当に感謝の気持ちにかなない。この感謝の気持ちを忘れず、また選手とともに全国大会出場を目指して頑張っていきたい。

東広島市立西条中学校 監督 **荒谷 洸太**

年代別レポート

小体連

令和6年1月27日(土)・28日(日)の両日、2023年度JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会の集合講習を東広島運動公園会議室、同陸上競技場、西条農業高等学校陸上競技場で開催した。

様々な年齢、地域、指導歴、指導対象、競技歴の25名が参加し、走・跳・投の理論研修と実技研修を行った。地域の実情や陸上競技への関わり方など幅広い情報交換ができたようである。

例年この講習会は、県の中学・高校生の強化練習に合わせて開催させていただいている。それぞれの講師の先生方からの、陸上愛を感じる熱心な指導と、競技場の熱気に、受講者は陸上競技の指導技術を取得するとともに指導者として多くの大切なことを学んでいた。

御協力いただいた講師の方々、強化委員会の先生方、西条農業高等学校の皆様へ感謝したい。令和4年度は、指導資格の入り口に当たるJAAF公認スタートコーチを開催した。令和6年度はスタートコーチとジュニアコーチの両方を開催する予定である。

陸上競技の指導力の向上には、指導技術の取得はもちろん必要であるが、それ以上にコーチングへの理解や安全管理の知識、様々なハラスメントの防止の観点が不可欠である。

令和6年度、多くの方が資格取得に向けて講習会に参加されることを願いたい。

広島陸上競技協会 指導・普及委員長
石川 和明



中体連

駅伝シーズンも終わり、いよいよトラックシーズンの到来である。12月の全国中学校駅伝(滋賀県)には、毎年、11月に東広島市で開催される中国中学校駅伝の優勝校が代表チームとなる。昨年度に続き、広島県代表チームとして、女子は西条中学校(12位)、男子は向陽中学校(21位)が全国大会に出場した。ここ数年、中国中学校駅伝への出場チームは男女とも53~57チームで、各地区の予選会を突破することで大会参加となる。代表選考に漏れたチームのなかで参加標準記録を突破すれば推薦校として出場できるが、そのハードルは非常に高い。以

前は、数チームが推薦校として参加していたが、近年はそのようなチームがないのが現状である。

また、参加校全体で考えた時のレベルの低迷や予選会に参加するチーム数が減少傾向にあるのが気掛かりである。中学校単位で考える以上は、それぞれの地域性があり生徒数の減少はどうにもならないことではあるが、陸上競技の長距離種目に取り組む生徒の減少には危機感が募る。改めて記録会やロードレースの実施や中学生の強化を目的に広島県陸上競技協会や県中体連が実施する合宿など、陸上長距離種目の普及に尽力されている方々に敬意を払いたい。

どうか、子供たちの持久走に取り組む機会が増え、そのやりがいを感じることでできる声掛けが飛び交い、小学校での持久走大会に向けての取組などを通じて、競技人口が増えることを強く願う。

東広島市立黒瀬中学校
鈴木 晶雄



高体連

12月24日(日)に京都府都大路で行われた全国高校駅伝には、男子は世羅高校、女子は世羅高校と、中国ブロック代表で銀河学院高校が初出場をした。銀河学院は、1区の森安が4位集団の6位でタスキをつなぐと、一時3位まで順位を上げるなど好位置でのレースとなった。ゴールでは6位から9位までが4秒差という接戦の中9位と初出場初入賞とはならなかった。世羅高校男子は、13位、女子は11位と広島県勢の入賞はならなかったが、いずれも若いチームである。次年度以降に期待したい。

12月に広島広域公園、修道大学陸上競技場などを練習会場に日本陸上競技連盟U-19強化研修合宿(中国四国合宿)が行われた。中国四国9県からトップの選手が集い、令和6年福岡で開催されるインターハイに向けてのトレーニングに励んだ。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
尾道北高校 **北風 慎哉**

学生連盟

1月21日全国男子駅伝が開催された。道沿からたくさんの方が応援する姿に胸が温かくなり、一生懸命に走る選手の姿を見て感動した。

トラック&フィールドでは、令和5年度から声出し応援の制限、マスクの着用などコロナによる大会への影響がほとんどなくなった。これにより、大会では各大学、観客の方による個性的な応援がスタジアムに響き渡った。大きな声援を送ったり、歌を歌ったり、手をたたいたり各大学の工夫がうかがえる。やはり応援があると会場の雰囲気も全く違う。応援団も選手と一体となっているかのような結束感が感じ取れる。そして、私自身一年間、学連幹事長を務めてきたが色々未熟な点もあったと思う。これからは後任のサ

ポートに注力していきたい。

最後に、今まで多大なる支援・協力をしてくださった広島陸上競技協会の先生方、広島県学連加盟校の学生を始めとした各団体の皆様へ感謝の意を表して終わりの挨拶とさせていただきます。

中四国学生陸上競技連盟広島支部
幹事長 **中本 隼介**

実業団連盟

2023年度ロードシーズンを振り返って

1月1日(月・祝)に、ニューイヤー駅伝2024(第68回全日本実業団対抗駅伝競走大会)が群馬県庁発着とする100kmのコースで開催され、当連盟から4チームが出場した。41チーム参加のうち、10位に中国電力、25位にマツダ、28位にJFEスチール、29位に中電工となり、来年度中国地区出場枠を1つ増やす力走を各チーム見せた。

皇后盃全国女子駅伝(京都)では広島県代表として、2区に竹原選手(ダイソー)、3区に江口選手(エディオン)が出場し、3位表彰台へ貢献した。

2月に山口市で開催された全日本実業団ハーフマラソンでは、中国電力が上位3人の合計順位で競う団体の部で3位入賞を果たした。

競歩では2月に日本陸上競技選手権大会・20km競歩(兵庫)が開催された。藤井選手(エディオン)が大会新記録での連覇を果たし、2024年夏に開催されるパリ五輪20km競歩日本代表内定となった。

オリンピックイヤーとなる来シーズン、当連盟のチーム・選手に更なる飛躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟
山崎 亮平

マスターズ連盟

中国マスターズ駅伝



今号は駅伝・ロードレース特集ということなので、2月24日に行われた中国マスターズ駅伝について紹介する。

駅伝は若者だけではなく、歳をとっても行うことができる。もちろん若い時に比べて体力、気力の衰えは覆うべくもないが、年齢に応じてそれ

なりに楽しむことができる。選手には若い時の駅伝のように何が何でも勝たなければいけないというさほどの重圧はなく、和気藹々と他県の仲間と親睦を深めつつ、競い合っている。

中国マスターズ駅伝は、例年中国5県の持ち回りで行っている。今年は島根県出雲市浜山陸上競技場発着で行われた。参加チームは多くはなかったが、20~80歳代までの男女が年齢区分ごとに精一杯の力走をした。選手は現時点での力を出し切ることができた。

都道府県対抗駅伝を走られた選手の皆さんも、将来マスターズ陸上に入会されて、ぜひこの駅伝にも参加していただきたい。

広島マスターズ陸上 広報
吉岡 光弘

CHUGOKU WOMEN'S SERA EKIDEN

2024 中国女子世羅駅伝競走大会

●日時／2024年2月18日(日) ●開催場所／世羅町



最優秀選手賞



今回、久しぶりに中国女子世羅駅伝を走りました。チームみんなのおかげで、総合優勝する事が出来ました。個人としては、区間賞、区間新のいい走りができ、優秀選手賞も頂けて、嬉しかったです。この大会を糧に、4月のトラックでも自己ベスト更新目指して頑張ります。沢山の応援ありがとうございました。

広島市陸協A 兼友 良夏

ドリーム賞



昨年末から練習会を重ねる中で、徐々にチームの一体感が生まれてきました。当日に兼友が合流し最後のペースが完成。「楽しく」をモットーに、誰も大きなブレイク無く、補員スタッフ含め、全員で勝ち切った姿に感動でした。

広島市陸協A 監督 出合 光太郎

広島県選抜合宿を通して、知り合いになった選手が多く出場していたが、走る前は不安な気持ちでいっぱいだった。しかし、昨年と同じ区間を走らせてもらった経験からラストパートも上手く出来た。ドリーム賞は2年連続の受賞となり、まさか今年も取れるとは思っていなかったのでも嬉しく思う。中学校最後の駅伝で、出し切れた走りが出来て満足している。今後はインターハイに出場できる選手を目指します。

東広島市立西条中学校 3年 藤井 柁奈

総合順位

優勝	広島市陸協A	1:11:45
第2位	福山市陸協A	1:12:15
第3位	三原市体協A	1:12:19
第4位	東広島市陸協	1:12:43
第5位	山口市陸協A	1:13:48
第6位	世羅陸協	1:14:51
第7位	福山市陸協B	1:15:28
第8位	呉市スポーツ協会	1:16:07
第9位	山口市陸協B	1:16:38
第10位	安芸高田市体協	1:17:18

そこにも、あそこにも、陸女がいっぱい!!

LIONスポーツスペシャル RCCひろしま女子駅伝競走大会

3月3日(日)RCCひろしま女子駅伝競走大会が、Balcom BMW 広島総合グラウンド陸上競技場で行われた。コロナが収束し、思いきり駅伝を楽しめることとなり、天候に恵まれた大会当日は、RCCアナウンサーで編成されたイマナマ女子駅伝部をはじめ、全104チームがエントリー。個性豊かな衣装で、幅広い年齢層の参加者たちが健脚を競った。1人約2キロのコースを走りきり、チームのメンバーに声をかけられながら、笑顔でタスキを繋ぐ女性ランナーたちの姿が印象的だった。

企画広報 委員長 藤原 文代

陸女の皆さん!一緒に競技役員をしてみませんか?

走ることが好き、走る姿を応援することが好き、陸上競技に興味を持ってもらいたい! 競技場やロードで本物の走りを見てほしい! そんな女性を増やしたい想いから“陸女”活動がスタートして6年。

今年は4年ぶりに広島東洋カーブとのコラボ缶バッジを製作し、ひろしま男子駅伝を応援しに来ていただいた多くの皆様へ缶バッジをお渡ししました。陸上競技に興味を持った女性の皆さん、わたしたちと一緒に競技場で競技役員をしてみませんか?

●お問い合わせはこちらへ: TEL.082-223-3256(広島陸協事務局)

総務 副委員長 奥村 恵美子

走ることが好き、歩くことが好き、
走る人を応援することが好き、
ワクワクするその気持ち
そう! あなたも陸女!! RIKU★JO



青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- 中国電力株式会社
- COCOKALAグループ
- T&TWAMサポート株式会社
- 株式会社エディオン

- 株式会社大創産業
- 株式会社ツルハグループ
- ドラッグ&ファーマシー西日本
- 広島駅弁当株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 株式会社中電工
- アシックスジャパン株式会社

- 株式会社合人社グループ
- 株式会社ひろぎんホールディングス
- JR西日本プロパティーズ株式会社
- 広島ダイヤモンドホテル
- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社いとや
- 株式会社ウイズアート

- 株式会社体育社
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 株式会社BTM
- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 広島文化学園
- 株式会社安芸葬祭

- 有限会社大竹交通

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス

(順不同)